

在留外国人のための防災対策支援事業

公益財団法人鹿児島県国際交流協会

令和 5 年 6 月 7 日

外国人住民及び支援日本人を対象とした連続防災講座の実施

主 催：公益財団法人鹿児島県国際交流協会

事業実施場所：鹿児島県さつま町

事業実施期間：令和3年10月～11月

第1回講座（支援日本人向け）
「災害時に外国人は何に困る？」

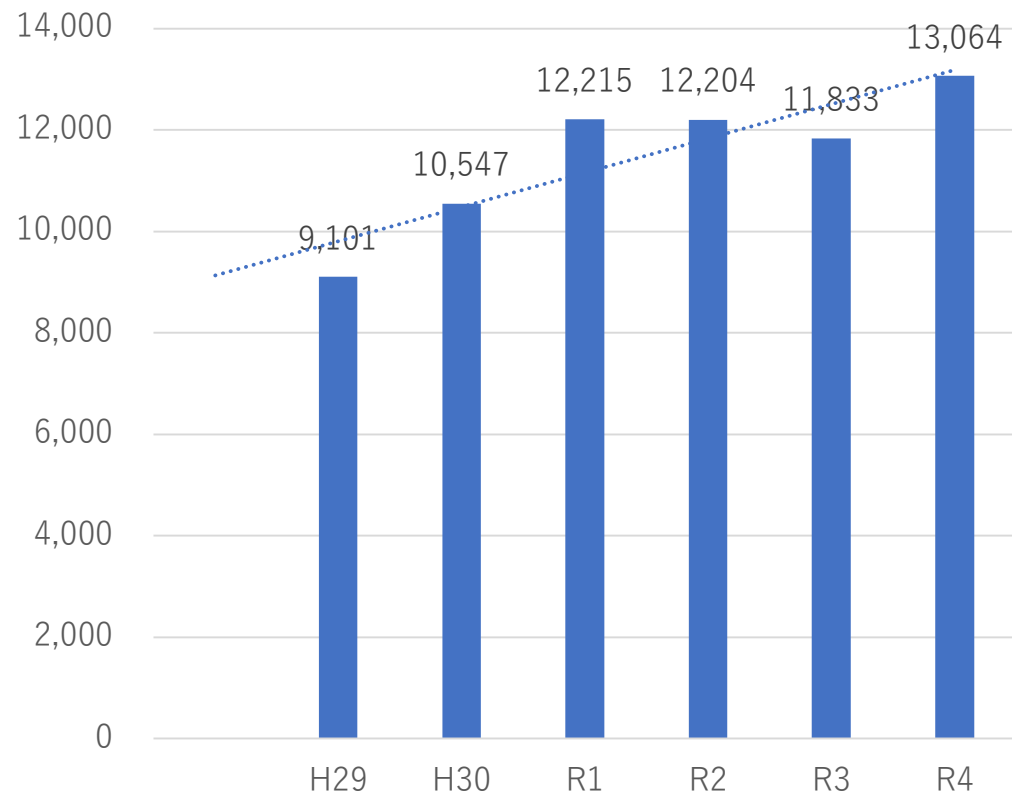
第2回講座（支援日本人向け）
「隣の外国人にどうやって「災害」を伝える？」

第3回講座（外国人住民向け）
「あなたの回りの「災害」から逃げるには？」

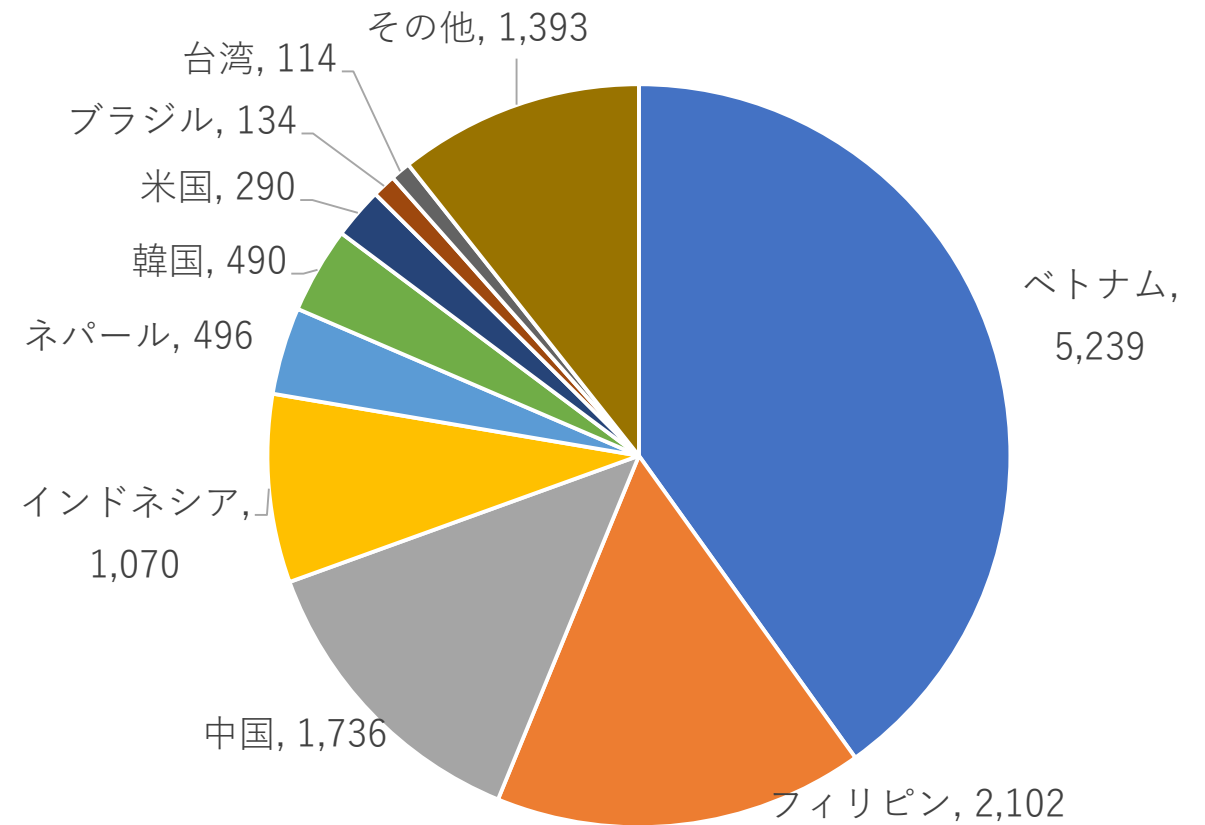
第4回講座（両者合同）
「チャレンジ！助け合って一緒に逃げる！」

鹿児島県の在住外国人の推移

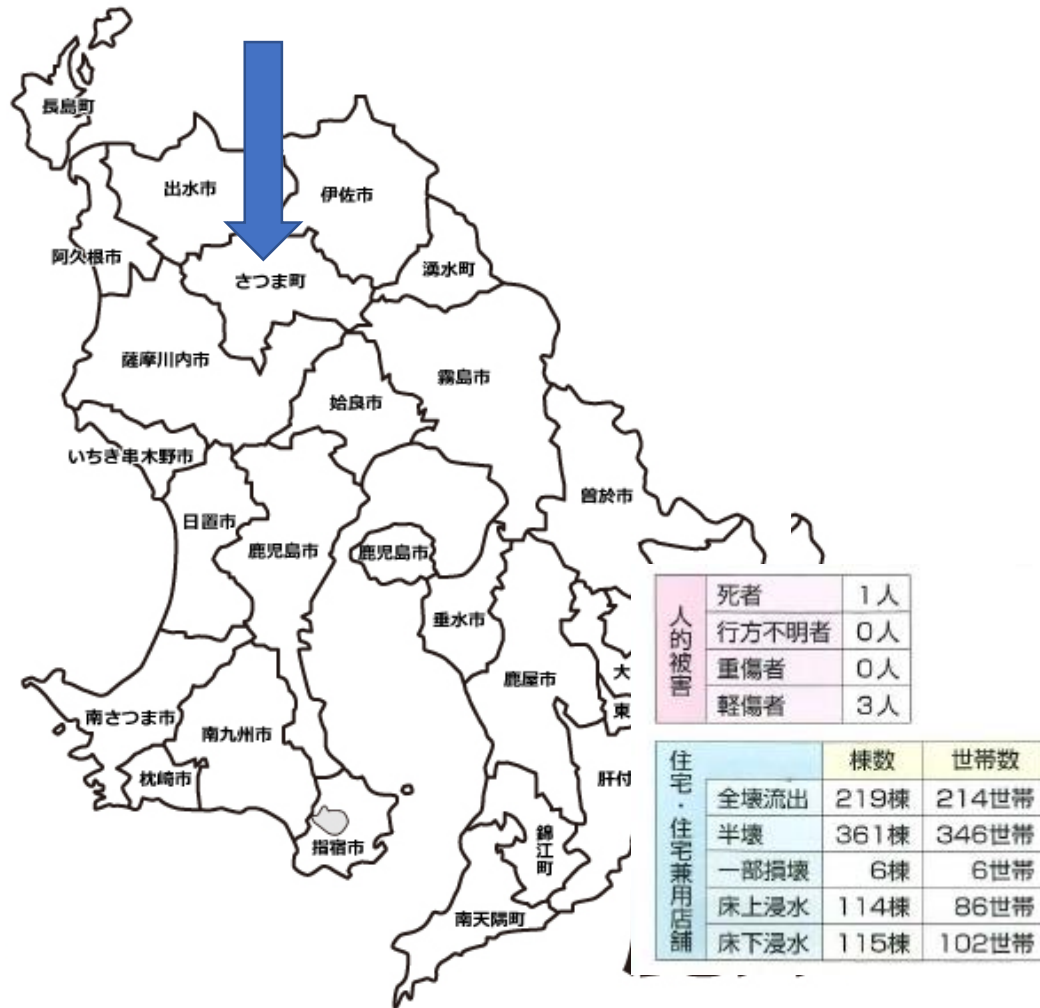
県内外国人総数（H29～R4）



R4 外国人国籍別（総数：13,064人）



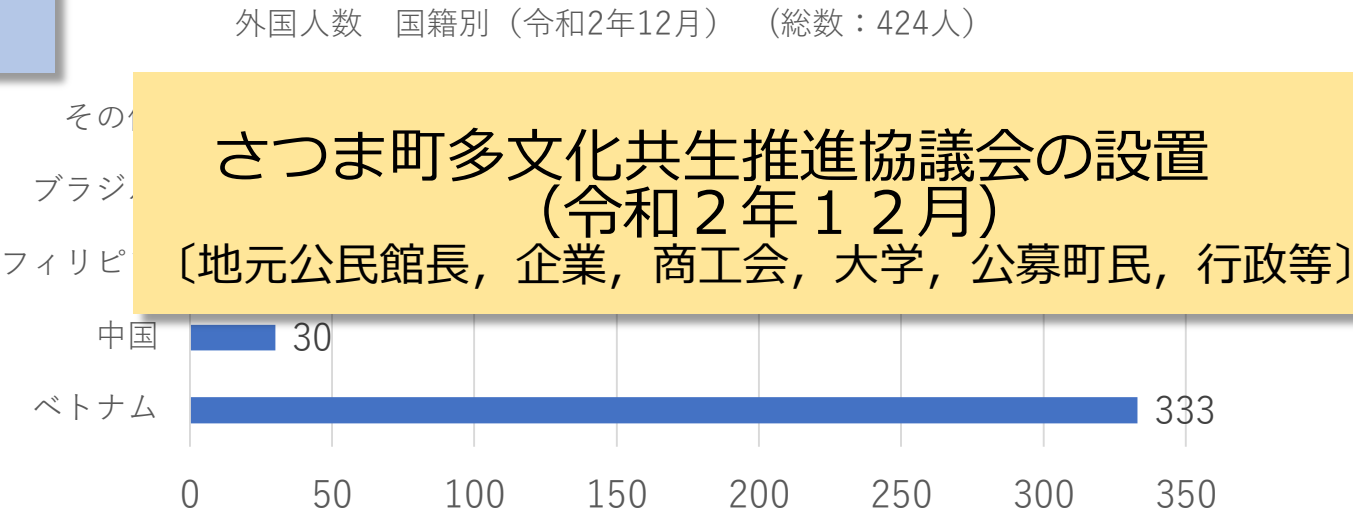
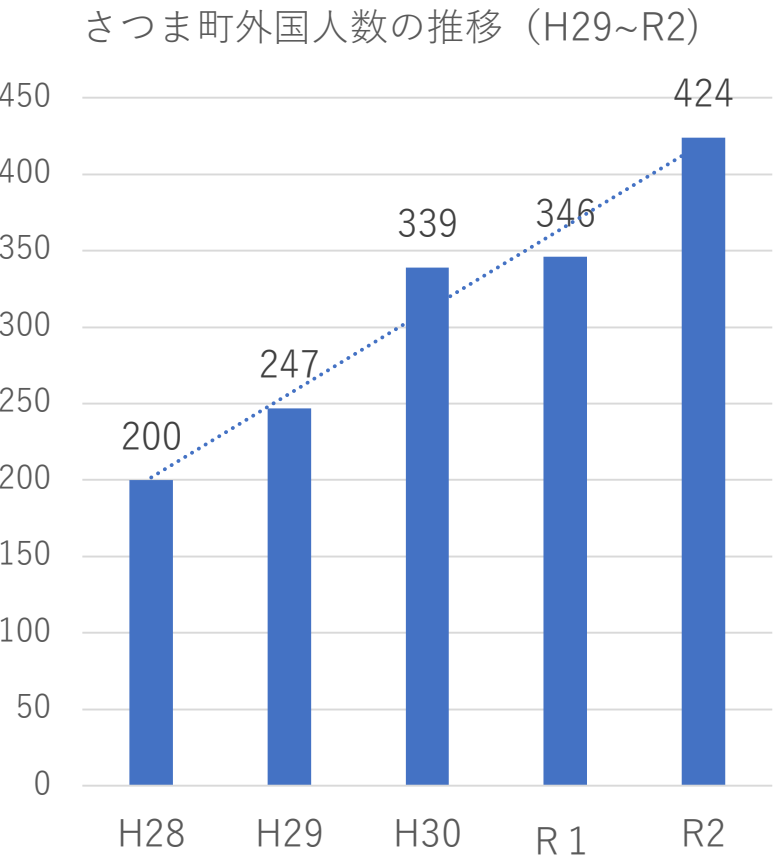
さつま町の位置等



過去の災害(平成18年7月豪雨)



さつま町の外国人住民の状況



地域別住民登録者数（令和2年12月）

地域	日本人	外国人	合計(人)	外国人比率（％）
求名	1,250	105	1,355	7.75
船木	1,791	104	1,895	5.49
宮之城屋地	3,080	64	3,144	2.04
虎居	2,720	55	2,775	1.98
山崎	585	43	628	6.85
その他地域	10,751	53	10,804	0.49
合 計	20,177	424	20,601	

第1回講座（支援日本人向け）

講座テーマ：災害時に外国人は何に困る？

日 時：令和3年10月3日（日）

受講者：公民館長，消防団，役場職員，一般町民，学校教員ほか

1コマ：（座学）

多文化共生の視点から考える災害対応

2コマ：（座学）

異文化理解～在住外国人の視点から見る災害～

3コマ：（座学）

異文化理解～ムスリムの視点から～

1 コマ：（座学）
多文化共生の視点から考える災害対応

講師：協会職員（多文化共生マネージャー）

内容：災害時に外国人が直面する困難
災害時における外国人への対応

災害時に外国人が直面する困難

①言語の壁がある。

* 熊本地震の場合：

・テレビや避難所での情報が
ほとんど日本語だった。
(漢字、ふりがな無し)

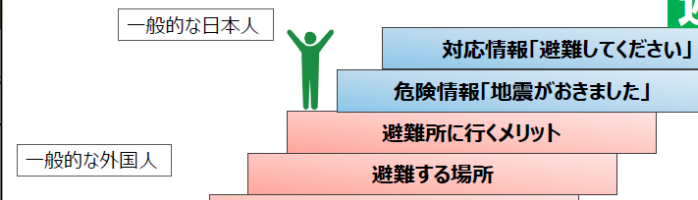
・給水、物資配給、不通などの
言葉が分からなかった。
(滞在歴の長い外国人住民
にも難しかった。)

・避難所の案内放送が早くて分からなかった。
(とっさに反応する日本人の行動にもストレス)

災害時に外国人が直面する困難

②背景知識が不足している。「ストック情報」と「フロー情報」

- ・人が行動を起こすときには、あらかじめ提供された情報やこれまでの教育・訓練情報（＝ストック情報）がスタートラインとなる。
- ・災害発生後に危険情報（例：地震が起きました）や対応情報（例：避難先へ移動してください）を受け取っても、ストック情報がなければ適切な避難行動はとれない。



2コマ：（座学）
異文化理解～在住外国人の視点から見る災害～

講師：ブラジル人留学生

（サンパウロ出身。鹿児島大学で土木工学を県有）

内容：日本で台風にあって困ったこと
ブラジル人の災害時の行動
ブラジルの災害分類 ほか

日本で災害のときに困ったこと

2018年8月

台風

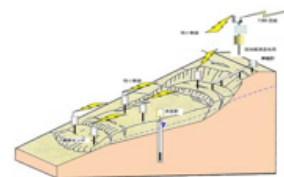
どんな行動



災害が起きたとき、ブラジルの人とはどう行動するか

予防策はありません

救助活動、シェルター、寄付



Conceptual image of slope monitoring



ブラジルでどんな災害がありますか

急傾斜地の崩壊

地すべり

土石流

鉄砲水

干ばつ



外国人の視点から困ったこと

災害や報告の時どんな行動

避難所

必要な準備

どこで情報を集めればいいですか



在住外国人のための
防災対応支援事業



2コマ：（座学）
異文化理解～ムスリムの観点から～

講師：マレーシア人住者
（元国際交流員。イスラム教徒）

内容：イスラム文化の概要紹介
災害避難所でムスリムが困ること
ハラール食，ハラム食とは何か



アッサラム アライクム

اَلسَّلَامُ عَلَيْكُمْ

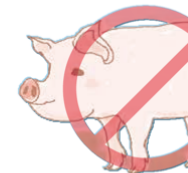
「平和（平安）があなたたちの上にありますよう

災害時に配慮してほしい事

- * 礼拝場所の確保
- * 寝る場所の区切り
- * ハラルフード

HARAM
ハラム
禁止された

- ❖ 豚肉
- ❖ ラード/油（乳化剤）
- ❖ 皮（ゼラチン）
- ❖ 内臓（酵素）
- ❖ 血液
- ❖ 骨
- ❖ 毛



第2回講座（支援日本人向け）

講座テーマ：隣の外国人にどうやって「災害」を伝える？

日 時：令和3年10月17日（日）

受講者：公民館長，消防団，役場職員，一般町民，学校教員ほか

1,2コマ：（講演）

「やさしい日本語を知ろう」紹介，入門

3コマ：（ワークショップ）

通常の日本語から「やさしい日本語」への変換演習



第3回講座（外国人住民向け）

講座テーマ：あなたの回りの「災害」から逃げるには？

日 時：令和3年10月31日（日）

受講者：さつま町内企業で働く技能実習生ほか（ベトナム人, アメリカ人）

1 コマ：（座学）

「日本の災害」「さつま町の災害」の特徴。つるだダムの防災機能

2 コマ：（演習）

非常持出袋の中身と使い方 ・ 段ボールベッドの組み立て演習

3 コマ：（実技演習）

・ 消防への電話のかけ方（3者通話） ・ 消火体験 ・ ボイストラ

1コマ：（座学）

「日本の災害」「さつま町の災害」の特徴。つるだダムの防災機能

講師：国土交通省川内川河川管理事務所
さつま町危機管理係

内容：日本の自然災害と対処法
大雨と川内川の氾濫危険性
つるだダムの貯水機能と防災機能



2021/7/10

Just 3 month ago



Satsumasendai city



length height
ダムの長さは450 m 高さは117.5 m
ダムの湖の面積は3.61 km²

2コマ：（演習）

非常持出袋の中身と使い方 ・ 段ボールベッドの組み立て演習

講師：鹿児島県国際交流課

内容：非常持出袋（現物）の中身調べ（各人）
段ボールベッドの組み立て



3コマ：（実技演習）

・ 消防への電話のかけ方（3者通話）・ 消火体験・ ボイストラ使用体験

講師：さつま町消防本部通信指令係，予防係
鹿児島県国際交流協会

内容：消防本部への架電（3者通話）体験
消火器の操作実演体験（屋外）



第4回講座（支援日本人・外国人住民合同講座）

講座テーマ：チャレンジ！助け合って一緒に逃げる！

日 時：令和3年11月7日（日）

受講者：1～3回の講座を受講した支援日本人，外国人住民

1コマ：（アイスブレイク）

「非常持出袋中身当てクイズ」「ゴミ袋からカップ作り」

2コマ：（講話＋演習）

ハザードマップの見方，使い方を，日本人・外国人一緒に学ぶ

1 コマ：（アイスブレイク）
「非常持出袋中身当てクイズ」「ゴミ袋からカップ作り」

講師：鹿児島県防災研修センター

内容：

じゃんけんゲームで非常持出袋の中身を確認
ゴミ袋を工作して防災カップを作る
（日本人・外国人混合グループで実施）



2 コマ：（講話＋演習）

ハザードマップの見方，使い方を，日本人・外国人一緒に学ぶ

講師：鹿児島県地域防災アドバイザー

内容：

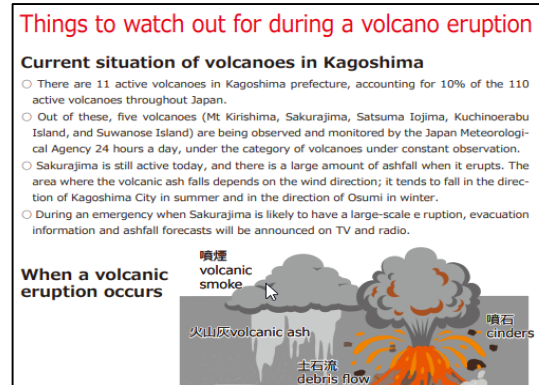
ハザードマップでの模擬避難演習
自分の家から避難所までを辿ってみる
（日本人・外国人混合グループで実施）



講座以外での防災対策支援

支援1：「防災ハンドブック」の作成

R3→やさしい日本語 R4→英語, ベトナム語 R5→韓国語, 中国語



ものは ____ (時): ____ (分) に配ります

支援2：「避難所用多言語シート・ピクトグラム」の作成 日本語, 英語, ベトナム語, 中国語, ポルトガル語

やさしい日本語 食べるものは ____:____ に もらうことができます

英語 Food will be distributed at ____:____.

ベトナム語 Thức ăn sẽ phát lúc ____:____.

中国語 供给食物时间 ____:____.

ポルトガル語 Distribuição de alimentos ____:____ h

本事業の特色

ポイント1：県都以外の地方部（郡部）で実施

ポイント2：短期間（約1ヶ月）で4回の講座を連続実施。

ポイント3：支援日本人向け講座→外国人住民向け講座→両者合同でワークショップ

ポイント4：実際に地域で外国人支援を担う人材が参加

ポイント5：各回の講座で、それぞれの分野の多彩な講師陣

ポイント6：外国人住民が非常持出袋，消防への架電，消火器の操作など実体験

ポイント7：防災ハンドブック，多言語シートピクトグラムの制作・配布・常置

事業実施によりわかった課題

課題 1 : 防災訓練・講座などへの外国人住民（技能実習生）の参加の難しさ

課題 2 : 日本人と外国人との災害知識・防災意識におけるギャップ

課題 3 : 日本人と外国人とのコミュニケーションの難しさ

課題 4 : 日本人, 外国人のお互いの「忌避感」の払拭の必要性



対策 : ・災害時のみならず, 普段からのあいさつ, 細かい声かけ
・交流イベントなど, 会話機会の創出

理想 :
お互いに名前呼び合い, 顔の見える関係を構築